

インド通信

みやぎ海外絆大使
JICA 海外協力隊
澤村啓之

インド通信第5号です。

インドの式典にはいくつかの儀式がありますが、今回はそのうちの一つを紹介したいと思います。

先日、勤務する学校で政府の要人も招待しての重要なセレモニーが開催されました。

そのセレモニーのなかで日本では行われないインドならではの儀式がありましたので紹介いたします。

「ランプライトニング」という儀式です。

火を灯すことはインドでは重要な儀式らしく、インドの色々なお祭りでも火を灯すことが多いらしいです。

式典会場の前列真ん中には鳥を形取った大きな燭台が準備されています。

その鳥の下は五角形の受け皿になっていて、まずその受け皿に油を注ぎます。

そこから油のしみた紐が垂れていて、ゲストが順番にそれに火をつけていくという儀式です。

なかなか厳かな雰囲気の中で儀式は進んでいきます。

式典の準備を担当した私は、ランプライトニングは重要な儀式だと聞いていたので、式次第のドラフトを作る際、開会宣言のすぐ後にランプライトニングを持ってきたら、インド人の上司からライトニングはゲスト紹介の後にするものだと直されました。

5人のゲストが順番に火をつけていくのですから、当然、ゲスト紹介が先ですね。

なんせランプライトニングの儀式なんて見たこともないわけですから、間違えるわけです。

文化の違いによる失敗ですが、いい経験をさせてもらったと思っています。



鳥を形取った燭台

油の準備

ゲストによる点火